



校長の目 ～西小日々通信～

令和4年9月13日（火）



朝夕は空気が涼しく過ごしやすくなってきました。今日の業前活動は、体育朝会でラジオ体操を行いました。コロナ禍以降、整列等の集団行動を継続的に指導する場面が減少していることから、子供たちの動きはぎこちないものの、久しぶりに全校児童が集まり整列する姿は壮観です。秋晴れの青空の下でみんなで行うラジオ体操は、とても気持ちよかったです。

ラジオ体操は、国民の体力向上と健康の保持や増進を目的とした一般向けの体操です。その歴史は古く、1925年にアメリカで始まりました。日本に導入されたのは、1928年です。簡易保険局を中心に日本放送協会、文部省等の協力の下に旧ラジオ体操第一が制定されました。現在のラジオ体操第一は、1951年から放送が始まりました。以降、家庭や学校をはじめ、職場等でも親しまれ取り組まれてきました。私が子供のころは、夏休みになると町会ごとにラジオ体操が行われ、スタンプカードにハンコを押してもらうのが楽しみでした。皆勤目指して、がんばって早起きました。ラジオ体操が終わると、地域のおじさんが手品や腹話術を見せてくれたのが、今でもいい思い出です。



毎週火曜日は、学校インターンシップとして教員を目指す大学生が来校しています。特別支援教育に興味があるということなので、おひさま学級に入り子供たちのサポートを中心に活動してもらっています。特別支援教育は、教育の原点です。一人一人が自律的に行動できるよう、サポートは必要最低限となります。子供たちの様子を見守り、どこまでがんばらせ、どこで支援の手を差し伸べるかが難しいところです。本校で経験を積み、今後の進路に生かしていただければと願っています。



6年生の社会科で租税教室を実施しました。租税教室は、次代を担う子供たちに税の意義や役割を正しく理解してもらうために開催している授業で、国税庁が所管しています。今日はふじみ野市役所税務課から4名の職員さんをゲストティーチャーとしてお招きしました。授業では、税金が使われているものとそうでないものを予想したり、ビデオ教材を見たりして、「税の使いみち」、「税の役割」、「税の必要性」等をわかりやすく教えていただきました。税金があることで人々が安全で豊かな生活を送れることを、子供たちも実感できたようです。

